



News Letter



第2回ドローンサミット(長崎大会)への出展

出展目的

2023年9月7日(木)、8日(金)、長崎市にある出島メッセ長崎にて第2回ドローンサミットが開催されました。一般的にドローンと言えば空中ドローンが想像されますが、海が多い長崎県から、長崎県らしさを出したいとの観点から出展依頼をいただいたこともあり、海のドローンとも言える海洋ロボティクスの社会実装に向けた活動をより多くの方々に知っていただくためにSIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」(以下、「SIP海洋」という)も出展しました。

出展にあたっては、長崎県はじめ多くの地元の方々のご協力をいただきました。

この場を借りて、改めて深く御礼申し上げます。

出展内容

ブース出展

パネル展示に加え、最先端の海洋調査機器である自律型無人潜水機(AUV)「NGR6000」と海底観測プラットフォーム「江戸っ子1号」の軽量板「COEDO Petite」の実物を展示しました。

特にNGR6000は展示会場でもひととき目立つ存在で、二日間で約4,000人の方々にブースを訪れていただきました。大石長崎県知事をはじめ副知事、県議会議長および地元経済界の方々に来訪いただいた他、ほぼすべての県内テレビ局や新聞社から取材もいただき、これまでの研究開発の成果および



来場者へ解説、取材対応など当日ブースの様子

SIP第3期が目指す深海鉱物資源開発および広域海中自動モニタリングシステムによる「海の見える化」の意義を、より多くの方に知っていただく絶好の機会となりました。

討論会開催

「ドローン応用tech最前線！～海・空・宇宙をフィールドとした協調～」とのテーマの下、SIP海洋の石井正一プログラムディレクターが「深海～海上～宇宙～陸上～連携する新しい時代」と題して、これまでに研究開発された海洋ロボティクス調査技術および深海資源調査技術を発表するとともに、SIP海洋が目指す将来像について講演しました。また、発表の中では、会場の近くにある長崎港で自律型無人洋上中継機(=ASV)「Kaikoo」がデモ航走する様子をホストである長崎県から提供されたドローンで空撮。併せてASVに搭載されたカメラから撮影した映像とともに、討論会の会場にライブ中継しました。

討論会には、長崎大学の山本郁夫副学長(モデレータ)と内閣府宇宙開発戦略推進事務局の三上参事官(発表者)が登壇され、フロンティア領域とされる海洋と宇宙の両分野における空モビリティとの関係や影響、今後の発展につき討論されました。会場には多くの視聴者が参加し、ライブ中継と合わ

せ、海と空の連携という新しい世界の一端を感じていただきました。また、地元の高校生からも質問が出され、若い世代の方々にも興味を持ってもらうことができました。

講演会開催

「海のドローン最前線」と題し、SIP海洋の藤原テーマリーダーと大澤アドバイザーおよび山本テーマリーダーならびに株式会社 FullDepthの伊藤昌平取締役が登壇し、それぞれ海洋ロボティクス調査技術開発と海洋環境影響評価システム開発につき、これまでに研究開発された技術の説明および今後の利活用の可能性につき、より専門的な切り口からの講演を行いました。会場には企業関係者他が参加、講演終了後、貴重な意見交換がなされました。

今後の展望

今回、長崎の地においてSIP海洋のPR活動を行うことができました。

今後もこのような機会をとらえ、SIP海洋の活動についてより多くの方々に広く深く知っていただき、これまでの研究成果の社会実装に向け、更なる取り組みを行って行きたいと考えております。

